

茨城大学農学部研究室訪問交流会のご案内

主催 茨城産業会議／茨城大学
共催 いばらき成長産業振興協議会

茨城産業会議は、茨城大学との産学連携事業として、隔年で茨城大学農学部の実験室訪問交流会を開催しております。本交流会は、大学の有するシーズの提供や情報交換を通じ産業経済界の活性化に資するもので、多くの貴重な情報が得られると好評です。

本交流会では、研究発表の聴講や研究室見学及び研究交流相談などを行います。また、今回は農学部学生のインターンシップの現状の説明を行い、受入れについての情報交換を実施いたします。多数の方々のご参加をお待ちしております。

1. と き 平成25年12月6日(金) 10:00～12:30
2. と ころ 茨城大学農学部 事務管理棟2階第1会議室 (阿見町中央3-21-1 TEL 029-887-1261)
3. 集 合 9:50までに茨城大学農学部 事務管理棟2階「第1会議室」にご集合ください。
4. 定 員 50名 (定員になり次第締め切らせていただきます。)
5. 参加費 無料 (懇談交流会の参加料についても無料です。)
6. 申込方法 別紙申込書にて以下の申込先へ11/27(水)迄にFAXまたはメールでお申込みください。

申込先団体	TEL/FAX
茨城大学学術企画部 (地域連携担当宛)	TEL:029-228-8605 FAX:029-228-8586 メール renkei@ml.ibaraki.ac.jp
(一社)茨城県経営者協会 (茨城産業会議事務局)	TEL:029-221-5301 FAX:029-224-1109 メール info@ikk.or.jp
茨城県商工会議所連合会	TEL:029-226-1854 FAX:029-224-7117
茨城県商工会連合会	TEL:029-224-2635 FAX:029-226-0955
茨城県中小企業団体中央会	TEL:029-224-8030 FAX:029-224-6446

< 内容 >

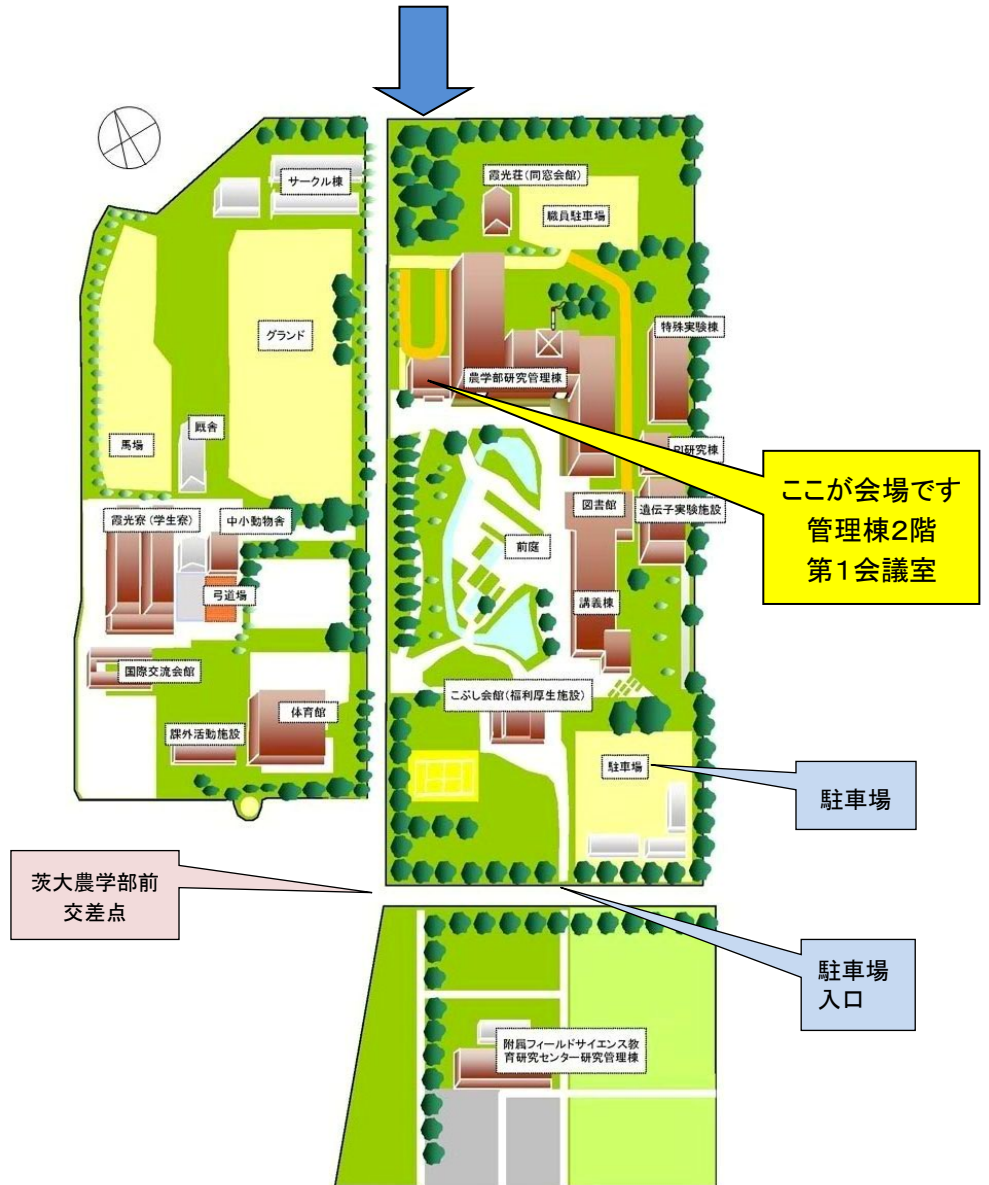
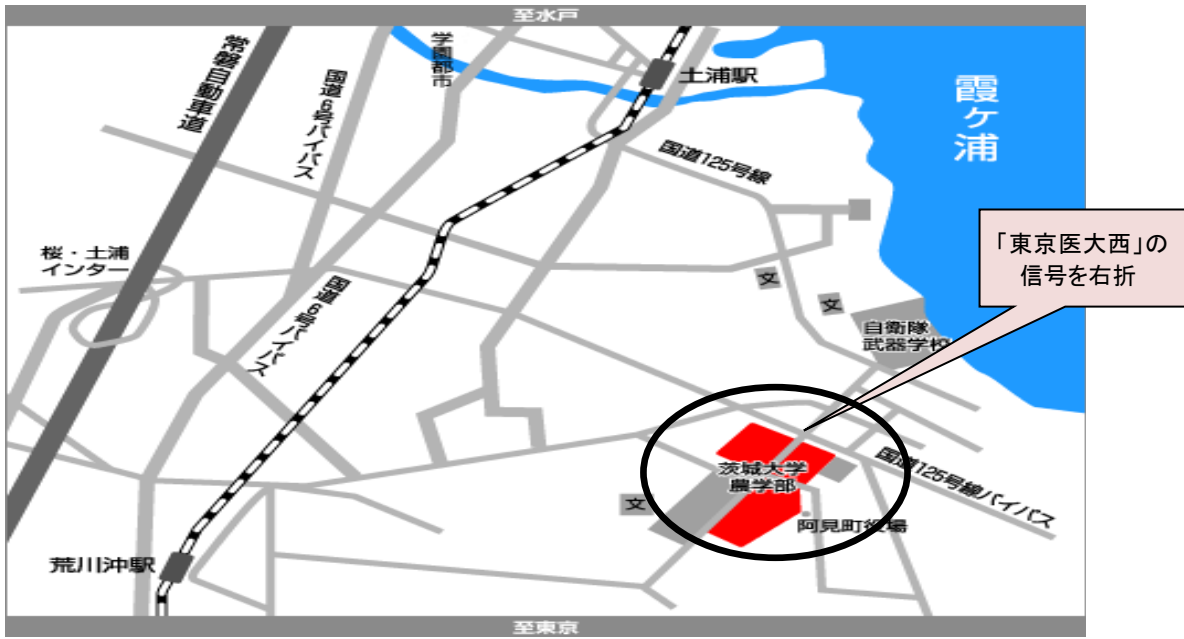
時間	内 容
挨拶 10:00～10:15	茨城大学理事・副学長 (学術担当) 神永 文人 茨城大学農学部 評議員・副学部長 久留主 泰朗
研究発表 質疑応答 10:15～10:35	拡張現実感技術を用いた農作業支援システム (岡山 毅 准教授) 各種環境モニタリングセンサから得られた情報や、別の熟練した農業者から得られた情報を、コンピュータ・グラフィックスで生成した直観的で分かりやすく、3次元的に現実空間と重畳させながら作業者に提示する、拡張現実感技術を用いた栽培支援を行うシステムの開発について紹介します。
研究室訪問 及び研究交 流相談 10:35～11:45	○4つのテーマに沿った研究室を公開 (未利用食料資源の利活用、機能性食品の開発・活用、食の循環システムの構築、環境保全型農業・土壌環境技術の開発) ○研究室を自由に見学 (見学可能な研究室は次表のとおりです) ○研究交流相談は事前に参加申込書にてご送付いただき、当日「研究交流相談コーナー」へお申し出ください。
懇談交流会 11:45～12:30	○会場: 第1会議室、軽食 (参加費は無料) ○農学部のインターンシップ事業について 農学部では3年次生を履修対象としたインターンシップ (選択1単位) を開講しています。学生は3年次前期までに身に着けた素養、スキル、専門知識をもとに就業体験を行い、併せて自身の長所、短所、興味、適性に対して気づき、今後の専門知識などの能力育成、職業選択の動機づけを図っています。(岡田久美子 就職指導講師)

研究室訪問

テーマ	研究室名	氏 名	研 究 概 略
未利用食料資源の利活用	食品分子機能学研究室	米倉 政実 教授	食品素材（ローヤルゼリー、アピオス、大豆など）中の生理機能性タンパク質や機能性ペプチドの構造と機能を調べ、機能性食品等への応用を目指した研究を行っています。
機能性食品の開発・活用	食品生化学研究室	白岩 雅和 教授	大豆や菊芋などの食用植物に含まれる生理活性物質の化学構造の決定、薬理作用の評価、植物体における代謝経路と生理的役割の解明を行っています。さらに、得られた知見を基に物質の代謝を人為的に制御することによって、食味性および食品機能性の観点からこれらの食糧資源の付加価値を向上させるための研究を行っています。
	生物制御化学研究室	長谷川守文 准教授	生物制御に関わる低分子生理活性物質（有機化合物）を対象とした研究を行っています。特に、イネが病気から身を守る仕組みの解明を目指して、病原菌感染によって誘導される低分子抗菌性物質であるフィトアレキシン（植物自身が作る農薬のようなもの）の生合成やその誘導メカニズムなどについて研究しています。
	食品生化学研究室	長南 茂 准教授	炭素の運び屋であるコエンザイムAについて、①微生物を使った有用物質生産への応用、②ラットおよびマウスを使った摂食行動との関連を研究しています。
食の循環システムの構築	遺伝子工学研究室（遺伝子実験施設）	安西 弘行 教授 古谷 綾子 助教	遺伝子工学技術を利用し、植物の病気に関する研究や生活に役立つ植物・微生物の開発研究を行っています。
	生命系経済学研究室	内田 晋 准教授	ライフサイクルアセスメントによる農業の環境影響評価や、産業連関分析による経済評価を行っています。循環型社会への新しい取り組みの環境への効果や経済波及効果を調べた研究についてご紹介いたします。
環境保全型農業・土壌環境技術の開発	農地環境工学研究室	西脇 淳子 助教	土壌の物理・化学特性を調べることで、土壌中での物質移動の解明を行っています。また、土壌中での物質移動という観点から、土壌・地下水汚染の研究、さらに、土壌を介した温室効果ガス移動などに関する研究を行っています。

※茨城大学農学部の学科や教授陣について詳しくお知りになりたい場合は、同学部のホームページをご参照ください。アドレス <http://www.agr.ibaraki.ac.jp/public/index.html>

会場案内図



茨城大学農学部研究室訪問交流会 参加申込書

(平成25年 月 日申込み)

会社名・団体名			
参加者	所属・役職名	ご芳名	見学を希望するテーマにチェックをしてください(複数可)
			<input type="checkbox"/> 未利用食料資源 <input type="checkbox"/> 機能性食品 <input type="checkbox"/> 食の循環システム <input type="checkbox"/> 土壌環境技術
			<input type="checkbox"/> 未利用食料資源 <input type="checkbox"/> 機能性食品 <input type="checkbox"/> 食の循環システム <input type="checkbox"/> 土壌環境技術
			<input type="checkbox"/> 未利用食料資源 <input type="checkbox"/> 機能性食品 <input type="checkbox"/> 食の循環システム <input type="checkbox"/> 土壌環境技術
今回見学をされる研究室への質問等をご記入ください。		_____研究室	
訪問交流会で御案内をする研究室以外に訪問したい研究室がありましたら、ご記入ください。		12/6(金)農学部研究室訪問交流会当日ご覧いただけるように見学を希望される研究室と調整後、大学からご連絡をさせていただきます。 なお、ご希望に添えない場合はご了承ください。 研究室は、茨城大学農学部HP (研究室一覧)をご覧ください。 _____研究室 _____研究室	
申込担当者の 所属・ご芳名		TEL : E-Mail:	

【研究交流相談について】

今回の交流会を機会に、研究交流・連携・技術相談等のご要望をお伺いいたします。
相談等の希望がございましたら下記にご記入ください。後日大学から連絡をさせていただきます。
(例) ・大学研究者に技術相談をしたい。 ・技術、商品等の共同開発を行いたい。 など

ご相談の内容 (具体的に)	
ご相談者の役職・ご芳名	
ご相談者の連絡先	TEL : E-Mail: